

10-a

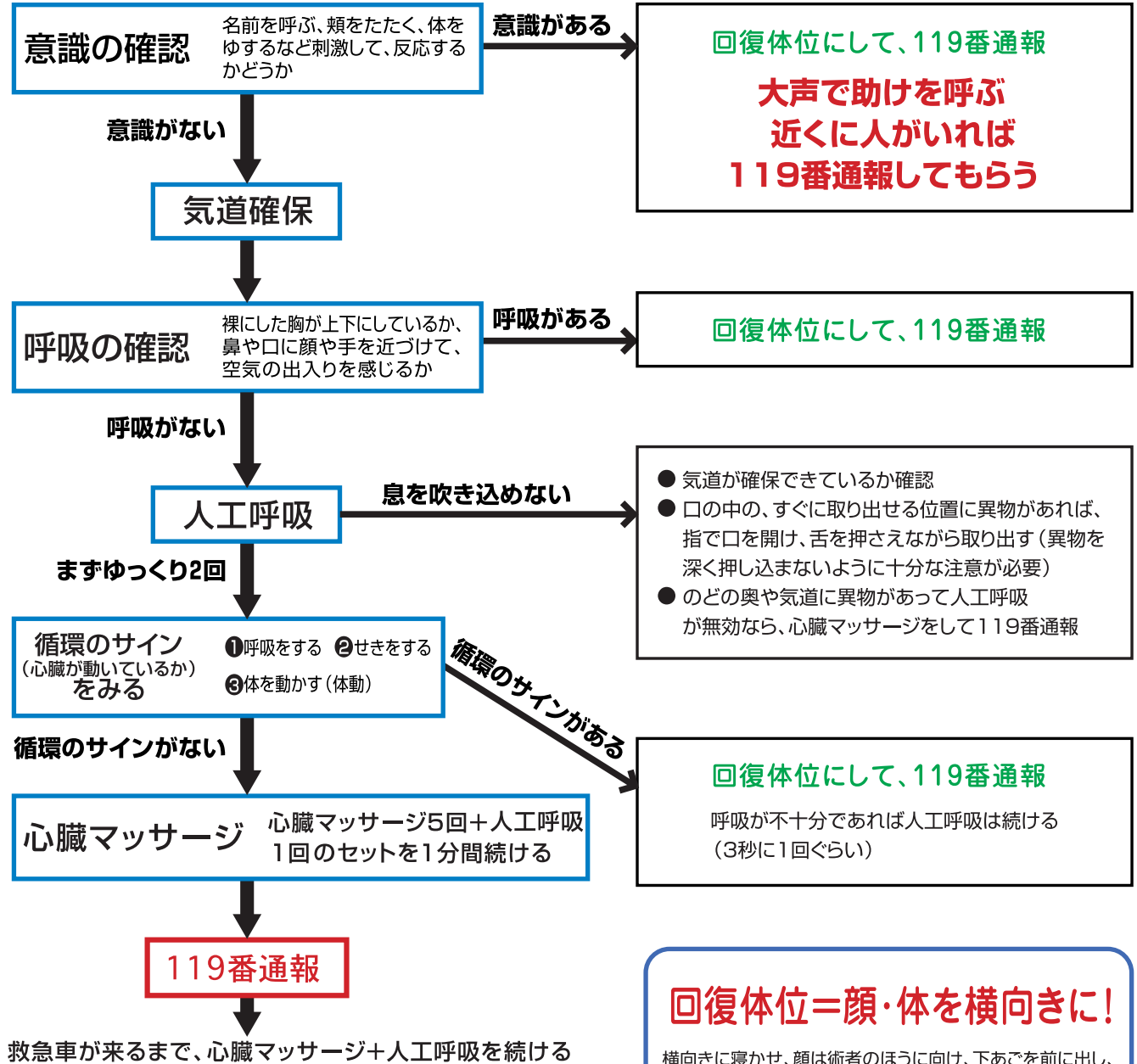
心肺蘇生法

ポイント

- 発見者がその場でただちに始めること!!
- 救急車は平均5～6分で到着します

赤ちゃんに心肺蘇生法が必要になるのは以下の場合です。

- 溺れた（風呂での溺水が多い!）
- SIDS（乳幼児突然死症候群）
- のどにものが詰まった（窒息・気道異物）
- 呼吸器の病気（仮性クレープ、急性細気管支炎、気管支ぜんそく重積発作など）
- 大きなけがをして意識がない（転落、交通事故）
- 循環器の病気（不整脈、心筋炎、心筋症など）



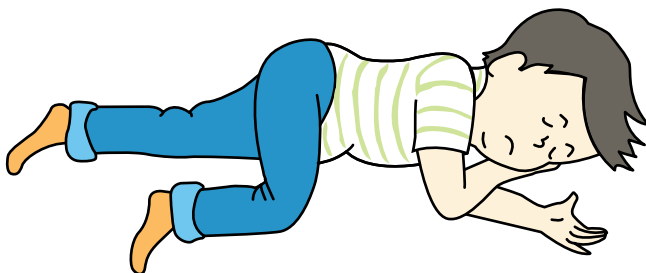
回復体位=顔・体を横向きに!

横向きに寝かせ、顔は術者のほうに向け、下あごを前に出し、上側のひじとひざを軽く曲げます。

枕を頭の下へ入れてはいけません。

この姿勢にして
救急車を
待ちます。

この姿勢にすることで、舌根沈下(舌の根元がのどの奥に落ち込んで気道をふさぐ)や、吐いた場合の窒息を予防することができます。



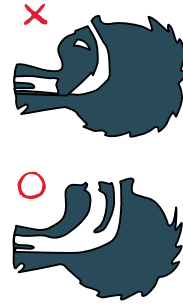
子どもの意識がなければ、直ちに始めて!

意識がなければ
気道確保

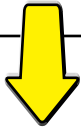
仰向けで、あごを持ち上げて頭を反らせる

- 平らで固い場所に、仰向けに寝かせる
- あごを指先で軽く持ち上げ、頭を後ろに反らせる
- 気道確保、呼吸の有無を確認

頭を反らせすぎてもダメ



意識障害時には、頭部を後屈して気道確保をしないと、舌根が下がってきて気道を閉塞してしまう



呼吸がなければ
人工呼吸

- 呼吸がなければ、まずゆっくり2回人工呼吸を行い、その後循環のサインをみる
- 1~15秒かけて息を吹き込む。吹き込む量は胸が上下する位で、お腹はふくれてこない程度に。3秒に1回行う。

術者の口を大きく開け、児の鼻と口を同時に覆って、息を吸い込むと同時に覆えなければ鼻だけ覆う



子どもの鼻をつまみ、術者の口を大きく開け、子どもの口を覆って、息を吸い込む



循環のサインをみる
(心臓が動いているか)

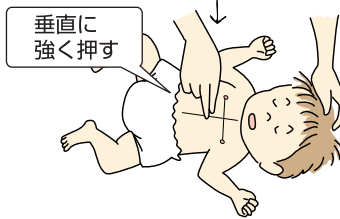
『自発呼吸をしている、咳をする、体を動かす』など循環が保たれているサインがあるかどうかを確認する



循環のサインがなければ
心臓マッサージ

- 固く平らなところに仰向けに寝かせて
- 胸の厚みの1/3位が沈む位の強さで、垂直に押す
胸骨=正中線を外さないこと!
- 1分間に100回が目安
- 5回心臓マッサージしたら、人工呼吸1回を救急車来るまで繰り返す

左右の乳頭を結んだ中央、指の幅1本分下を指2本(中指と薬指)で垂直に押す(胸骨上で)

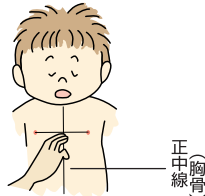


胸骨の下端より指の幅2本分上を片手の手のつけ根で垂直に押す(胸骨上で)



圧迫する位置

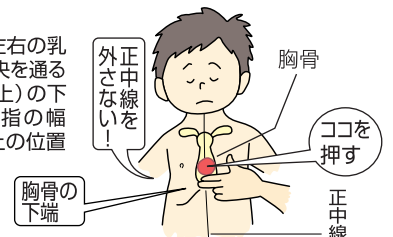
- ①左右の乳頭を結ぶ線の中心の直下に右手の人差し指を置き、中指と薬指を人差し指にそえて胸骨(正中線)の上に置く



- ②人差し指を持ち上げ、中指と薬指で胸骨上を押す



胸骨(左右の乳首の中央を通る正中線)の下端より指の幅2本分上の位置



人工呼吸2回

心臓マッサージ5回

人工呼吸1回

人工呼吸と心臓マッサージのリズムと回数

